

平成 2 7 年度玉城町議会行政視察報告書

玉 城 町 議 会

平成27年度玉城町議会行政視察報告書

- 1 視察日程 平成27年6月29日（月）から6月30日（火）
- 2 視察先 鳥取県日南町



- 3 参加議員 風口 尚、山口和宏、北 守、坪井信義、北川雅紀、中瀬信之、奥川直人、山本静一、前川隆夫、小林 豊、
- 4 随行者 中村元紀（生活福祉課長）、川井清美（生活福祉総括主任）
田畑良和（議会事務局長）、宮本尚美（議会事務局係長）
田中孝佳吉（議会事務局書記）
- 5 視察研修のテーマ
 - (1) 議会改革への取り組み
 - (2) 子育てを楽しめる町

《日南町の概要》

中国山地のほぼ中央、広島県、岡山県、島根県の3県に隣接し、面積341k㎡、人口5,281人、面積89.3%が森林であり、農林業が主な産業という典型的な中山間地域である。高齢化率が46.5%

■ 議会改革への取り組み

タブレット端末を導入会議のペーパーレス化。
議会基本条例の制定。（町長の反論権など）
町民に対する議会報告会や意見交換会の実施。
本会議、委員会のテレビ生中継、録画再放送。
議員報酬増額（月額21,000円の増額）

■ 子育てを楽しめる町

子供たちがこの町に生まれ育ちよかったと感じ、大人になっても住み続けたいと思えるような町づくりに情熱的に取り組んでいる。

平成25年度の合計特殊出生率が2.91と極めて高い。

町内に住所があり定住の意思がある家庭に対して、出産祝金2万円の支給。

保育料の減免

第1子保育料基準額の2分の1、第二子 3分の1、第3子以降全額免除
医療費（高校卒業まで）通院 530 円/日上限 入院 1,200 円/日上限

〔所見〕

役場庁舎、子育て支援センター施設に入ると、とても温かみを感じる。木造造りのよさであろう。

議場は他に類を見ないデザインで、例えば、障子、ここも日本建築のすばらしさがあり心を和ませる感覚である。

今回、日南町では議会改革と子育て政策の2つの大きなテーマで視察を行った。

まず、議会改革では、タブレット端末を導入した会議のペーパーレス化を図り、経費や労力節減及び会議の効率化などに取組んでいる。三重県内で導入している町議会はないと認識している。非常に先進している。平成 15 年から議員全員に公用のパソコンの貸与を開始し、平成 17 年に電子メールによる公文書の受送信を導入し OA 機器の活用に積極的に取組むことが、タブレットの導入に至ったと思われる。

他に注目すべき点は、執行部の反問権・反論権を採用している。議論の整理への対処というレベルではあるが、議員一人ひとりのかなりの勉強が必要で資質の向上につながると思う。

また、定例会ごとに議会だよりの発行、年 1 回町民との直接対話方式で議会報告会を行い、意見交換会を一定条件で実施するなど、積極的に町民の中に議会としてとけこんでいる。

議員報酬については、執行部提案にて全会一致により月額 21,000 円の増額決定されたことに感嘆した。

子育てを楽しめる町づくりについては、人口 5,000 人で 65 歳人口が 50% 近くに達しており、過疎地域特有の高齢社会となっている。若年層の人口流出に小子化が進み緊急課題として、子ども子育て基本計画に取組まなければならない状況である。大筋はどここの町でも取組んでいるものだが、過疎地域としてよりきめ細かく積極的な育成支援行動計画となっている。

子育ての応援としての当町の取組みも、まだまだ発展途上にあると思われる。保育料の軽減・無料化問題や医療費の免除幅の拡大、病後児保育に関してもっと議論を重ねて子育てがしやすい環境整備に努めたい。

そして、過疎化の問題は、近い将来、どこの自治体も抱える問題である。地方自治体は過疎化の問題が出てくる前に、想像力と責任感を持って過疎問題に取り組むべきである。